

タイトル：『汐製菓会社の新作』
ウエハース3』

・オープニングシーン：汐のオフィス

【場面】汐製菓の社長室。汐はロープに逆さにぶら下がり、ノートにアイデアを書き込んでいる。塩田が疲れた顔でドアを開けて入ってくる。

塩田「社長、また逆さまに…いい加減にしてくださいよ！何を考えているんですか？」

汐（逆さまのまま）「逆さでアイデアを考えると、新しい視点が得られるんだ！次は夕張メロン味のウエハースだ！」

塩田（驚いて）「それって普通すぎませんか？もっと突飛なアイデアが欲しいです！」

汐「いやいや、これが斬新なんだ！ただのメロンじゃなくて、驚きのメロン体験を提供するんだ！」

（汐が華麗にロープから飛び降りてポーズを決める）

汐「さあ、すぐに開発チームに伝えてくれ！ウエハース史上、最大の革命が始まる！」

2. 開発部の混乱ーメロン味の暴走

【場面】開発部。スタッフがバタバタと試作品を扱い、メロンの香りが漂う中、試作品が膨張している。

開発部員A「社長、メロンエキスを注入したらウエハースが暴走中です！」

開発部員B（汗を拭きながら）「このままじゃ爆発するかも…防護服が必要です！」

塩田（焦りながら）「お菓子の開発で防護服なんておかしいでしょう!？」

汐「これが爆発じゃない、メロンの甘さが全身に広がるんだよ！食べる人の感覚を刺激するんだ！」

（ウエハースが大きなポップ音を立てて膨らむ。全員が慌てて避難し、メロンの香りに包まれる）

開発部員〇「目が痛いです！香りが強すぎます！」

塩田（鼻をつまみながら）「社長、これは本当に食べ物なんですか？」

汐「これだ！これこそメロンの全身を感じる革命だ！」

開発部員〇「でも、この香りは鼻を刺すし、ウエハースとしての形が…」

塩田（ため息）「社長、普通に美味しいウエハースを作りましたよ…」

③ 国内試食会 – 甘さの嵐！

【場面】汐製菓の国内試食会。参加者たちがウエハースを前にして、香りに驚いている。

司会者「皆さん、お待ちせしました！こちらが新作の『夕張メロン味ウエハース』です！」

参加者A（香りを嗅ぎながら）「なんだこの匂い…甘すぎて、鼻がやられる！」

参加者B（眉をひそめて）「香水みたいな匂いだな…食べられるのか？」

塩田「社長、やっぱり香りが強すぎるんじゃない…」

汐（笑顔で）「これこそがメロンの真実だ！甘さを感じるだけじゃなく、体で体験するウエハースなんだ！」

（お客さんたちが恐る恐るウエハースを口に運ぶ）

参加者A「うわっ、甘さが爆発してる！舌が痺れる！」

参加者B「口の中がメロンで包まれて…いや、むしろ攻撃されてる感じだ！」

参加者C「これは…なんだかクセになりそうだ。すっごい！」

参加者D「でも、味が強すぎて他の食べ物を食べられなくなりそう…」

塩田（小声で）「これ、果たして売れるんですようか…？」

汐「大丈夫、世界はこんな味を求めている！次の試食会に向けてもっと磨くぞ！」

♪ 国際試食会 - カオスな国際市場進出

【場面】海外の試食会。各国から集まったバイヤーたちがウエハースを試食しているが、メロンの香りが強烈すぎて会場がざわつき始める。

バイヤーA「なんだこの匂いは！？強すぎる！」

バイヤーB「まるで果物爆弾だ！」

バイヤーC「ウエハースでここまで強烈な香りは初めてだ！」

(バイヤーたちが恐る恐るウエハースを口にす
る)

バイヤーA「な、何だこれは！？メロンの味が強烈すぎて、他の味が感じられない！」

バイヤーB「甘さが爆発してる！これはもはや菓子というより兵器だ！」

バイヤーC「いや、これは芸術だ！こんなウエハ
ースは見たことがない！」

バイヤーD「だが、これは商品として大丈夫な
のか…？」

汐（満面の笑みで）「これこそ次世代のウエハ
ースだ！食べた瞬間、記憶に残るインパク
ト！さあ、契約を…！」

バイヤーE「確かに衝撃はあるが…売れるかど
うかは別問題だな…」

バイヤーF「いや、私は好きだ！だがこれ、一
般市場で受け入れられるかどうかは疑問
だ！」

塩田（小声で）「社長…このままじゃ本当に
地獄のようなウエハースになりませんか…？」

汐（無邪気に）「大丈夫だ！衝撃を求める
人々がいる！次はウニ味チョコウエハース
だ！」

⑤ 次なる挑戦…ウニ味チョコウエハース

【場面】オフィスに戻る汐と塩田。夕張メロンウエハースの反応は不安定だったが、汐は次のアイデアに燃えている。

塩田「社長、夕張メロンウエハース、SNSで話題にはなってますけど…『強烈すぎてヤバイ』っていう反応ばかりです。」

汐「それでいいんだ！記憶に残る味が大事なんだよ。次はさらに進化させるぞ…ウニ味チョコウエハースだ！」

塩田（目を見開いて）「ウニと…チョコ？社長、本気ですか…？」

汐（情熱的に）「海の幸と甘さの融合だ！これは新時代の味覚革命だよ！」

（汐がウニの缶を取り出し、みんなが警戒する）

開発部員 A「社長、ウニは生臭いです！ チョコの甘さが完全に消えます！」

塩田「社長、これはただの悪夢です！ 誰がウニ味のチョコウエハースを求めるんですか？」

9. ウニ味チョコウエハースの試作 ― 新たな混乱（続き）

【場面】開発部。ウニ味チョコウエハースの試作が始まるが、再び混乱の渦に。

開発部員 B「社長、ウニとチョコを混ぜると、変な色になってしまいます！」

開発部員 C「味見してみましたけど…海の香りが強すぎて、チョコの甘さが全く感じられませんか！」

塩田（不安そうに）「これは本当に売れるんですか…？」

（汐が試作品を試食し、目を丸くする）

汐「おお、これは新しい発見だ！甘さと海の旨味が融合している！」

（全員が啞然とし、意見が分かれる）

開発部員「社長、それを美味しいと感じるのはあなただけです…」

開発部員「苦笑しながら」「一般の人は、この味を受け入れられないかと…」

（突然、ウニの缶から溢れ出た液体が、汐の顔にかかる）

塩田（爆笑しながら）「社長、ウニが顔に！完全にウニまみれです！」

汐（ウニまみれで微笑む）「これも新しいブランドディング！『ウニウエハース、海からの贈り物』だ！」

（開発部のメンバーたちが苦笑いしながらも、汐のエネルギーに巻き込まれていく）

7. SNSで大ヒットーウニの逆襲

【場面】数日後、SNSで「ヤバすぎるウエハース」がバズり始めた。

塩田（パソコンを見ながら）「社長、ウニ味チョコウエハースがSNSで大騒ぎです！『これぞ新しい地獄の味だ』とか、『海のフレーバーがすごすぎる！』とか…」

汐「それだ！人々の心に残るお菓子がついに生まれた！さあ、次は…カレー味ウエハースか、タコ焼き味か…」

塩田（疲れ切った表情で）「社長…もう少し普通の味を考えてくださいよ…」

汐「でも、普通は退屈なんだ！変な味が人を引きつけるんだよ！」

（その時、国際的なバイヤーからの電話が鳴る）

汐「もしもし、汐製菓の汐です！おお、ウニ味が好評？それならどんどん生産しよう！」

塩田（心配そうに）「社長、まさか本当に売るつもりですか？」

汐「もちろんだ！ウニ味ウエハースは新時代のお菓子だ！」

∞ 新商品の発売ーパーティー開催

【場面】汐製菓の発売パーティー。ウエハースを手にした人々が集まる。

司会者「皆さん、お待たせしました！新作

『ウニ味チョコウエハース』の発売です！」

（参加者たちがウエハースを手にし、戸惑いながら試食を始める）

参加者A「何だこれ！？甘いのに海の香りが…！」

参加者B（顔をしかめて）「これ、やっぱり変わってるな…でも、クセになりそう！」

参加者C「これは新しい！ぜひお土産にしたい！」

参加者D（ウエハースを持って）「これ、友達に驚かせるには最高だ！」

（汐が舞台に立ち、全員に向かって話し始める）

汐「皆さん、これが新しいお菓子文化の始まりだ！食べることは冒険だ！さあ、ウニの世界へ！」

塩田（小声で）「社長、冒険が過ぎてます…」

⑨ 世界中の反応 ― パニックの嵐

【場面】国際的なニュースでウニ味ウエハースが特集される。

キャスター「驚くべきことに、ウニ味チョコウエハースが大ヒット！その奇抜さが話題となり、各国で売り切れ続出！」

（映像が流れ、様々な国で人々がウエハースを食べている）

参加者㊸（アメリカ）「最初は戸惑ったけど、意外とクセになる！」

参加者㊹（フランス）「これはフュージョンフードの最高峰…！」

（映像が日本に戻り、塩田がパソコンで反応を確認している）

塩田「社長、海外でもウニ味ウエハースが大
絶賛されています！なんかよくわからない流
行になってきました…」

汐（興奮しながら）「いいぞ！世界中がウニで
盛り上がる！次はもっと面白い商品を考え
よう！」

10. エンディング… 新たな挑戦へ

【場面】再び汐のオフィス。汐と塩田が次の
計画を話し合っている。

汐「さて、次は何を作ろうか…カレー味ウエハ
ース、タコ焼き味…それともスイカ味ウエハ
ース？」

塩田（頭を抱えて）「もう普通の味でいいです
よ…」

汐（大声で）「普通なんてつまらない！新しい冒険を続けるんだ！」

（ふたりが笑い合いながら、汐が次々と新しいアイデアを書き始める）

塩田「社長、次の試作はウニ味チョコウエハースのリミックスにしましょうか？」

汐（大きく頷いて）「それだ！ウニ味、さらに進化させてやる！」

（カメラが引いて、二人が新たなアイデアを語るシーンで幕を閉じる）

終わり